

1 学校教育目標

明るくたくましく、自ら考え実行し、思いやりのある生徒の育成

2 めざす学校像

学力の向上を図り、豊かな人間性と社会性を育成する信頼される学校

3 現状と課題

本校は、22学級と学級数が増加している。学級規模が大きくなってはいるものの、全体的には落ち着いており、明るく素直な生徒も多い。また、比較的、基礎学力の定着している生徒も多くみられる。しかし、個々の生徒をみれば、小さな問題行動を起こしたり、発達障害による二次障害のみられる生徒や不登校状態の生徒も少なからず存在するとともに、学力差も見られる。また、思いやりのある生徒も多い反面、主体的に考え行動したり、コミュニケーションを苦手とする生徒も少なくない。指導する教職員集団も相互連携が図れるようになり、明るく活力のある集団となってきた。一人ひとりの努力及び教職員集団としての意識統一を図り、さらに温かな教職員集団の構築を図っていききたい。

4 目標

[中期経営重点目標]明るく素直な生徒・落ち着いた環境を維持するとともに、基礎基本定着状況調査で通過率60%未満の生徒の割合を平均5ポイント、自己存在感・効力感・有用感の否定的自己評価を平均5ポイント少なくする。		[評価指標]教師の自己評価及び保護者・学校協力者会議委員の評価、基礎基本定着状況調査の割合、生徒の自己評価アンケートの割合
短期経営重点目標(1年目)	評価指標	主な具体的方策
授業への意欲的取り組み・授業理解の否定的評価の割合を平均2ポイント以上少なくする。	生徒の自己評価アンケート	全員体制の授業研究を継続的に実施し、研究協議会や日々の授業交流を通して授業改善と知の共有化を図り、「学習意欲のある」「分かる・できる」授業の展開を目指す。
		授業で学習の苦手な生徒や学習意欲の乏しい生徒への手だてを工夫するとともに、全員対象の視点を持って学校内外での補充(発展)指導や個別指導を工夫し実施する。
		授業に対する復習・予習等の家庭学習の仕方の資料作成とともに、補充(発展)・個別指導に対する家庭学習の仕方についての工夫を通して、家庭学習時間の伸長と充実を図る。
自己存在感・効力感・有用感の否定的評価の割合を平均2ポイント以上少なくする。	生徒の自己評価アンケート	全校朝会や学年・学級集会、個別指導を通して生徒に規範性を養うとともに、丁寧に生徒一人ひとりを見取り指導することを通して、落ち着いた環境を維持し、集団の中での自己存在感を育てる。
		総合的な学習の時間(国際交流を含む)を中心に、言語的・非言語的な受容・解釈・表現などのコミュニケーションスキルを培い、日常生活及び集団生活の中で正しく活用できる指導を行う。
		特別支援教育の視点をもとに個別の指導計画の共有や予防的・積極的・対処療法的生徒指導を推進し、一人ひとりを大切にした教育を展開するとともに、特別活動の充実を図り自己効力感・有用感を育てる。
目指す教師像の期待値の平均を2ポイント以上アップさせる。	教師の自己評価アンケート	各自が自己の役割の責任を果たすとともに、部署を越えての情報交換や報告・連絡・相談等、コミュニケーション力と思いやりの心をもって、協力し合える温かな教師集団の構築をさらに図っていく。
		研究課を新設し、道徳・学活や総合的な学習の時間の有効な運営や、ひろしま型カリキュラム・新学習指導要領の完全実施に向けて研究を進め、全員協力体制で実践化を図っていく。
		陸上部、女子卓球部、剣道部を増設し、学校文化・体育活動と社会文化・体育活動との責任を明確にするとともに、教職員の協力関係のもと、部活動の活性化及び教科学習との両立を図る。